

★タイ環境学習キャンプの記録その 2 中込貴芳（自然文化誌研究会副代表理事）

保護区本部に着いた午後、私たちは付属しているネイチャートレイルの一つを保護区のレンジャーの案内でたどりました。このトレイル周辺にはトラやヒョウ、ゾウやバンテンと呼ばれる野生牛、鹿などが生息しています。このような場所に行けば、簡単に野生動物に出会えそうに思えますが、サバンナのような平原でもないかぎり、実際には森の中で野生動物に出会えることは稀です。しかし、トレイルを歩くと様々な形の野生動物の足跡や糞（ゾウの糞も！）、また辺りから漂ってくる野生動物の臭いや、木に擦りつけられた動物の尿の臭い、ゾウがなぎ倒した竹藪など、辺りに多くの野生動物が生息している痕跡を感じるだけでも十分に迫力があります。案内してくれるレンジャーは数年来、親しくしていて、この地区の動物の習性や植物について大きなジェスチャーを交えて詳しく教えてくれます。その知識は、長い間の保護区の中での実践に裏付けられていて、本当に豊富

で尊敬に値します。

その日の夕食は、本部の側を流れる川のほとりの食堂施設でとりました。夕食を取り終えると、川の対岸に沢山の鹿が現れました。ライトで照らすと沢山の光がこっちを見えています。中には川を渡ってこちら側の岸に渡ってくるものもいます。また、近くの木にはシーベット（イタチのような小型の哺乳類）が登ってこちらを見えています。

野生動物との出会いを楽しんだ後、その夜は、珍しく晴れ上がりました。タイはこの時期は雨期にあたり、この時期はきれいに晴れ渡ることがあまりありません。しかも月明かりもなく、あたりには人家も全くないために暗いので、日本ではみられない南天の星々が、雲のように明るく流れる天の川とともに見ることができました。夜、遠くから野生動物の鳴き声が時折聞こえてくるのも熱帯の森の醍醐味です。（2009 年の報告より）

